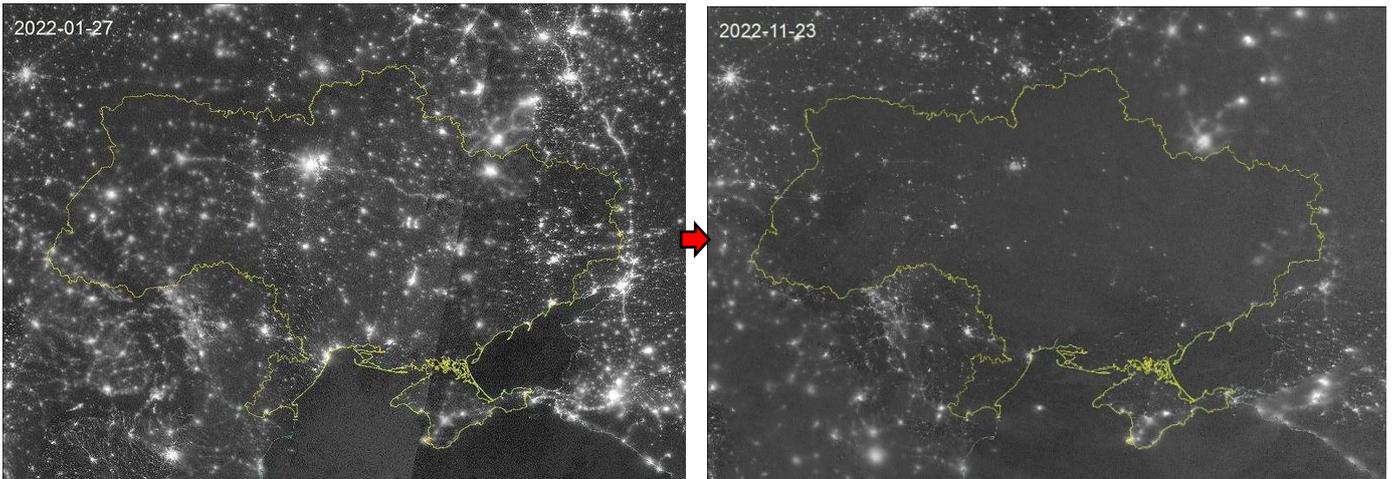


11月27日のウクライナ情報

安齋育郎

●昨ロシアによるウクライナのインフラ施設攻撃後の衛星写真(2022年11月25日)



※安齋注]左は2022年1月27日の写真。黄色で囲まれた地域に電力を供給している変電所の攻撃かな。電力供給を途絶えさせるには発電所のほか、一次変電所(大規模工場などに配電)、送配電線網、配電用変電所(コンビニや家庭に配電)などへの攻撃が考えられます。こういう電力インフラに対する攻撃は生活や医療にもかかわるから「いくら何でもヒドイ」という人もいますが、10月8日のクリミア橋に対するウクライナ側のテロを起点とするロシアの報復という性格のものですね。

●ノルドストリーム2への破壊工作現場の映像(2022年11月25日)

<https://twitter.com/i/status/1596075927041376258>



※安齋注:これは明らかに人為的破壊工作です。デンマークの TV 2/Bornholm で放送された映像のようです。

●プーチン大統領、母の日に軍人の母親たちと面会(2022年11月25日)

モスクワ、11月25日 - RIA Novosti。

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナでの特別軍事作戦に関与する軍の母親たちと会談した。

とりわけ、国家元首は、これらの女性にとって、母の日は不安とケアの感覚に関連していると指摘した。

その言葉によると、SVOの参加者を除いて、それがどのような仕事であり、どれほど危険であるかを誰も知らない。

プーチン大統領はまた、母親を通じて軍人と個人的に電話で連絡を取り合っており、多くの人が彼

らの気分や問題に対する態度に彼を驚かせていると述べた。

大統領はまた、国は特別作戦中に子供を失った人々と喪失の痛みを共有しており、当局はこれらの人々に包括的な支援を提供すると強調した。彼はまた、会議で議論されるすべてのことを考慮に入れることを約束した。

プーチン大統領は、「今日お話しすることがすべて考慮され、実際の生活で使用されるように努めます。

2月24日、ロシアはウクライナで特別軍事作戦を開始した。ウラジミール・プーチン大統領は、その目標を「キエフ政権による8年間のいじめと大量虐殺にさらされてきた人々の保護」と呼んだ。国家元首は、最終的な目標はドンバスの解放と、ロシアの安全を保証する条件の創出であると強調した。

<https://twitter.com/i/status/1596147439031156736>



●ベルリンで、ロシア語を話す市民がウクライナ人移民に襲われる(2022年11月26日)

ロシア生まれの男女のカップルが、ウクライナの旗を持った5人組に声をかけられた。夫婦がロシア語を話した途端、割れたビール瓶で攻撃。地面に倒れた女性の顔面に至近距離から唐辛子スプレーを噴射した。女性は頭と手に怪我をして入院した。

ジャーナリストたちは、ウクライナ人の残虐行為を「政治的動機による攻撃」「ロシア人に対するヘイトクライム」と露骨に呼ぶ。容疑者自身も特定されておらず、拘束もされていない。



●トルストイからステパン・バンデラへ(2022年11月)

ウクライナ中部の州の一つヴィニツィア市では「レオ・トルストイ通り」を、ウクライナの民族主義者に敬意を表して「ステパン・バンデラ通り」に改名したと、地元市議会のプレスサービスが報じた。

※安齋注:バンデラは、戦間期から第二次世界大戦中にかけてポーランドとソ連の両方と戦った活動家であり、極右的な準軍事組織を率いた人物である。ウクライナの見解では、彼はウクライナの独立のために戦った「自由の闘士」

「独立の英雄」ということになっている。しかしながら同時に、彼は 1941 年と 1944 年にナチ・ドイツと協力した「ナチ協力者」でもある。彼とその仲間が発表した声明には、反ユダヤ主義が色濃く表れており、ロシア人、ポーランド人、ユダヤ人を「敵対民族」として排斥することが謳われていた。



ネオナチに崇拝されるスレパン・バンデラについては、次の映像をご覧ください。

<https://twitter.com/i/status/1500668575853740035>

●キエフのショッピング・モールにハーケンクロイツ(2019年)

2019 年、キエフのショッピング・モールの階段に公然と現れたハーケンクロイツ。バンデラアベニューという通りにあるそうだが、バンデラは 1943 年 7 月 11 日にポーランド人の虐殺(ヴォルイーニ虐殺)を行なった。



※安齋注:ウクライナのナチ化は相当に深刻であり、単に極右民族主義者のアゾフ連隊だけに限った話ではなく、ウクライナ社会にしみ込んでいる状況です。ロシアがウクライナ紛争に先立って掲げた目標の一つが「ウクライナの非ナチ化」でした。和平交渉に当たっても、ウクライナ側が「ウクライナの非ナチ化」について合理的な政策骨子を提起し、それを国際的な監視団のもとで実行する定かな見通しが示されないと、ウクライナのロシア語話者が引き続き民族浄化的な弾圧を受ける恐れを遺すでしょう。

●スペインでもウクライナ人による攻撃(2022年11月26日)

スラブハウス協会代表のアラ・ウサノバさんと彼女の息子が、ドンバス支援行動に参加したことを理由に、スペイン北東部のバスク地方のウクライナ人から公然と脅かされている。

「毎日、ボイスメールが届きます。私の息子の写真を撮って拡大し、この顔は覚えておくべきだとあったり、毎日、留守電が入ったりします。私をファシストと呼ぶ人たちは、放置されています。家に脅迫

状が来ることもあります」と言う。

「私達がどんな団体で、どんな支援をしているのか理解しようとしないうし、ポスターに何が書かれているのか、私たちの言葉やスピーチの目的は何なのか、誰も見たがらないので、とても難しいです」。

地元住民や当局との間に困難や問題が生じたことはない。ウサノバさんはスペインの司法機関に相談したが、何もしてくれない。



●前駐日ロシア大使のガルージン氏が外務副大臣に(2022年11月26日)

ミハイル・ガルージン駐日大使はその任を解かれ、プーチン大統領令により外務副大臣に任命された。ガルージン氏は駐日ロシア大使として日本に赴任していた期間の大半は露日関係が肯定的に発展した時期だったと指摘した。同氏は、ロシアと日本は「経済、エネルギー、文化などの分野で重要な合意」に達することができたと言った。



●フランス警察、抗議行動に銃を突きつける(2022年11月26日)

抗議行動を阻止しようとするフランス警察、トラック運転手に銃を突きつけた。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1596186905523408896?t=9FIqD7QS F3g6-G3UE6jPyQ&s=09>



●プーチン大統領;「非友好的」な国との貿易禁止を延長(2022年10月25日)

ロシアのプーチン大統領は 19 日、ウクライナ紛争でモスクワに制裁を加えた「非友好的」な国々との間で、特定の種類の商品と原材料の貿易に制限を課す政令を延長した。

ウクライナでのロシアの軍事作戦開始直後に出された 3 月の大統領令は、2022 年 12 月 31 日に期限切れとなる予定だったが、さらに 1 年延長して 2023 年末になった。

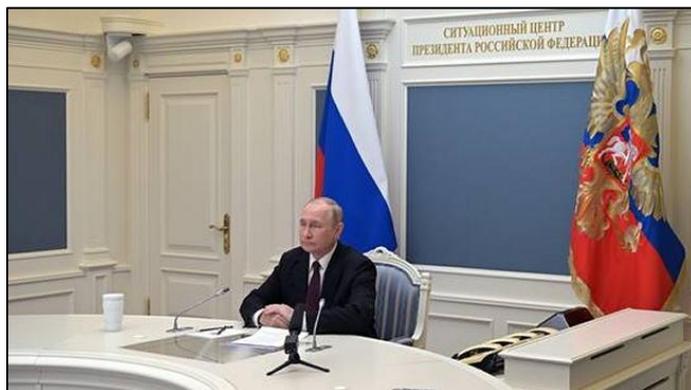
ロシア政府は 3 月に禁止品目のリストを承認した。その中には、技術・通信・医療機器、車両・農業機械、電気機器など 200 種類以上の商品・設備が含まれていた。これらの物品は、ロシアのパートナーであるユーラシア経済連合、アブハジア、南オセチアを除くすべての外国への輸出が一時的に制限された。

さらに、「非友好的」な国への特定の種類の木材の輸出も禁止された。この禁止令は、商品の通過や個人使用目的で国外に持ち出すもの、ロシア製でロシアの原産地証明書が付いた商品などは対象外としている。

これとは別に、プーチンは水曜に、「非友好的」な国の国民が所有する株式や出資者との取引を一時的に禁止するロシアの銀行 45 行のリストを承認した。

リストには、ライフアイゼンバンク、コメルツ銀行、クレディ・スイス銀行、ウニクレディット銀行、ドイツ銀行のロシア子会社が含まれている。禁止期間は 2022 年 12 月 31 日までだが、株主が大統領から特別な許可を得た場合は取引が認められる可能性がある。

ロシアに「非友好的」とされる国のリスト



注:非友好国リスト=米国、英国、EU 加盟国、アルバニア、アンドラ、オーストラリア、バハマ、アイスランド、リヒテンシュタイン、カナダ、ミクロネシア、モナコ、ニュージーランド、ノルウェー、韓国、サンマリノ、北マケドニア、シンガポール、台湾、ウクライナ、スイス、日本から構成されている。

●ギニアビサウ大統領;ゼレンスキーにプーチンのメッセージを手渡す(2022年11月27日)

ギニアビサウのウマル・シソク・エンバロ大統領は、ウラジーミル・プーチン大統領の要請により、ロシア大統領のメッセージをウクライナの大統領ヴォロディミール・ゼレンスキーに伝えたと述べた。

シソク・エンバロ(Shisoku Embalo) は 火曜 モスクワ を 公式 訪問し、ウラジーミル プーチン と会談 した。

ギニアビサウ大統領によると、ロシアの指導者自身がゼレンスキーと話し、モスクワとキエフの間の交渉が可能であることを知らせるよう求めた。同時に、エンバロは、アフリカ諸国がウクライナでの武力紛争の早期解決に関心を持っていると指摘した。

シソク・エンバロは、プーチンとゼレンスキーの間の可能性のある交渉の仲介者として自分自身を見ていると強調した。

「私はプーチン大統領との会話で述べた。これがゼレンスキー大統領と会った後の私のビジョンだ。アフリカ大陸がこの紛争を解決するために努力できるなら、私は準備ができている。これが私が来た目的の1つである」彼は次のように言っていると引用されている



●ゼレンスキー、プーチンから「メッセージ」を受け取る(2022年11月26日)

ギニアビサウのウマロ・モフタル・シソク・エンバロ大統領は 26 日、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領からウラジーミル・ゼレンスキー大統領に、モスクワとキエフの「直接対話」の重要性について「メッセージ」を伝えるよう依頼されたと主張した。

エンバロは、プーチンとの会談の翌日、キエフで行われたゼレンスキーとの共同記者会見で、この事実を明らかにした。

「親愛なる弟よ、昨日私はロシアでプーチン大統領と一緒にいた。彼は、我々の将来の共同行動にとって直接対話が非常に重要であることを考慮して、あなたにメッセージを伝え、あなたと話すよう私に頼んだ」と、エンバロは言った。

記者会見の動画は、ゼレンスキー氏のテレグラムチャンネルで公開され、エンバロ氏の発言はウクライナ語に翻訳されている。

ギニアビサウの大統領はまた、ロシアとウクライナの関係修復に貢献することで、自らを「ある衝動の担い手」とみなしていることを明らかにした。

エンバロはゼレンスキーとの会談前、記者団に対し、プーチンが「ゼレンスキー大統領との交渉に非常に前向きである」ことを知り、「この好意をウクライナの指導者に伝える」ことを楽しみにしている、と語った。

ゼレンスキー氏は記者会見で、エンバロ氏の発言に対し、国と国の架け橋になるためには、「インフラを爆破してはならない」と述べた。ゼレンスキーは、10月10日にロシアがキエフのクリミア橋への「テロ攻撃」に対する報復として行ったウクライナの発電所への攻撃について言及したようだ。

また、ウクライナの指導者は、どんな会話にも一国の他国に対する敬意が必要で、それにはまず「領土、主権、国境」を尊重することが必要だと述べた。

今月初め、プーチンは、両国間の交渉が行われていない背景として、ウクライナの対話拒否を挙げた。また、3月下旬のトルコの仲介による会談で、ロシアとウクライナは予備的合意に達したが、ロシア軍がキエフから撤退すると同時に、「キエフの指導者は会談をする意欲を失った」と指摘した。

プーチンの発言は、ゼレンスキーが彼との交渉を一切禁じ、ウクライナは別の大統領になったときだけロシアと話すとする法令に署名した直後のことである。ウクライナの指導者は、この紛争における唯一の目標は、戦場でロシアを倒し、キーウが主権下にあると信じている全領土の支配権を奪回することだと繰り返し述べてきた。



●ウクライナの軍事通信員の証言(2022年11月25日)

軍事通信員スラドコフは「ウクライナでは約千人の傭兵が隠れて戦っている。ほとんどが米国人と英国人。ポーランド人傭兵の給与が1日500\$減額され現在は1,000\$になっている」と指摘。

彼は高給取りの外国人傭兵から優先的に好条件で捕虜交換される事実を考えるようウクライナ人に促した。

「塹壕の中でさえ西洋人に馬鹿にされている」



●国連人権高等弁務官のウクライナ兵のロシア軍捕虜射殺事件について述べる(2022年11月25日)

国連人権高等弁務官のフォルカー・テュルク氏(オーストリア)は、ウクライナでのロシア兵捕虜射殺事件をめぐる状況を徹底的に調査し責任者を裁くべきだと述べ、先に公開されたビデオ映像が本物であるとも訴えた。また「正確に立証するために独立した詳細な科学捜査の必要性が浮き彫りになった」と付け加えた。



●グルジア与党事務総長の弁(2022年11月25日)

グルジア与党の事務総長は「グルジアは、反ロシア制裁を課して自ら死ぬような事はしない。国の利益とそこに住む人々の利益を守る。制裁に参加したら誰が苦しむのか？ 私たちの国、私たちの人々です」と Imedi TV チャンネルに語った。



●ウクライナの腐敗の実態(2022年11月24日)

ウクライナの女性外交官が全面暴露したウクライナ官僚・議員・オリガルヒ腐敗の大実態。欧米からの巨額支援金でエリート・エスタブ(エスタブリッシュメント=規制勢力)がいかに懐をこやしているか。

(翻訳:池田こみち)

ロシアによるウクライナへの軍事攻撃が始まって以来、米国、欧州連合、およびその同盟国は、キーウに 1260 億ドル相当の援助を行った。これは、同国の GDP 全体にほぼ等しい数字である。

さらに、何百万人ものウクライナ人が EU に避難し、住居や食料、労働許可証、精神的なサポートを得ている。その規模は、西側の基準から見ても膨大なものだ。EU が自国の経済・エネルギー危機に対処しながらキーウに資金を提供してきたことを考えると、この支援は特に注目に値するだろう。

キーウは、戦争による経済の崩壊と、「ロシアの侵略に対抗する」必要性から、際限なく資金援助を要求している。しかし、その援助は目的地に届いているのだろうか。

■モナコ大隊

ウクライナが 60 歳未満の男性全員に及ぶ総動員体制をとる一方で、多くの元・現高官、政治家、ビジネスマン、オリガルヒが海外、主に EU に安全を求めて移動している。

ウクライナのエリートたちの集団逃亡は、武力紛争以前から始まっていたのである。2022 年 2 月 14 日、ウクライナ大統領の議会派閥「Servant of the People」37 人の議員が突然「行方不明」になってしまったのだ。翌日、議員の出国が禁止されていなければ、他の議員も間違いなく加わっていただろう。一方、元政府高官やオリガルヒは、より自由に動き回れるようになった。イタリアの新聞『ラ・レプブリカ』によると、14 日にもキーウのポリシュポリ空港から 20 機のビジネスジェットが飛び立った。

その先頭を走っていたのは、財界人たちだった。企業家で国会議員のヴァディム・ノヴィンスキー、実業家のヴァシリー・フメルニツキーとヴァディム・ストーラー、ヴァディム・ネステレンコ、アンドレイ・スタヴニツァーはみなチャーター便で出国した。大富豪の政治家イゴール・アブラモビッチは、親族、ビジネス・パートナー、党员を乗せた 50 人分のオーストリア行きのプライベート・フライトを予約した。

オリガルヒはキーウからニース、ミュンヘン、ウィーン、キプロス、その他の EU の目的地に飛んだ。別

の実業家グループはオデッサから自家用機で飛び立った。ポストーク銀行のオーナーはイスラエルに向かい、トランスシブグループのトップはリマソールに飛んだ。オデッサ州の元知事、スタルカナートのウラジミール・ネミロフスキーも出国した。

2022年の夏から初秋にかけて、『ウクライナ・プラウダ』は、戦時中にコート・ダジュールで休暇を過ごすウクライナの億万長者や高官の姿を目撃した調査ドキュメンタリーをいくつか用意した。「**モナコ大隊**」という皮肉なタイトルの映画では、**ウクライナのオリガルヒが別荘や邸宅、ヨットで休んでいる様子が映し出されている。**

最初のパートでは、インターポールの指名手配リストに載っている実業家コンスタンティン・ジェバゴが、7000万ドル相当のプライベート・ヨットでくつろぐ姿が映し出される。コート・ダジュールの海岸線を彩るヨットで、ゼヴァゴの家族が下船する。ハリコフの企業家アレクサンドル・ヤロスラフスキーは、ヨットを売却し、その資金をハリコフの復興に充てることを約束し、並走する姿を見ることができる。

「ウクライナ・プラウダ」の記者たちは、現在フランスで年間200万ユーロのアパートを借りているスルキス兄弟の姿も目撃している。一方、ウクライナの実業家ヴァディム・エルモラエフが所有する30万ドルのベントレーがモナコのカジノ近くで目撃され、ユーロエナゴトレードの共同設立者エドゥアルド・コハンがモンテカルロの高級ホテルで目撃された。

ウクライナのオリガルヒの集団は、フランスのエリート集団であるキャップ・フェラットに居を構えているようである。土地開発業者のヴァディム・ソーラー、オリガルヒのドミトリー・フィルタシュ、ヴィタリー・ホームチンニク、セルゲイ・ロヴォチキンが、戦争のさなかに上流生活を楽しんでいる。

ベルギー国王レオポルド2世が所有していたキャップ・フェラットの別荘は、ウクライナで最も裕福なオリガルヒ、リナト・アフメトフによって買い取られた。彼の隣人は、投資グループDAD LLCの社長アレクサンダー・ダヴティアン、ドネツク地方議会の元副議長ウラジスラフ・ゲルジーンである。

映画の制作者が繰り返し強調しているように、「親ロシア派」の議会派閥の議員や実業家は、戦時中に国外へ出て行った。しかし、現政権の積極的な支持者の多くも、外国から祖国を守ることを望んでいる。

■軍事・人道支援はどこへ行く？

西側の支援者の中には、軍事・人道支援物資のほとんどがウクライナ軍や一般市民の手に渡らないことに最近気づいた人もいる。

CBSはオリジナル・ドキュメンタリーで、軍事援助の約70%が意図した受益者に行き渡らず、援助国もその使用目的を管理できないことが多いと報じている。このレポートの作成者によると、**武器の一部は闇市場で売られているとのことだ。**米国海兵隊の退役軍人アンディ・ミルバーンは、「前線の部隊では、これらのものが届いていないことは紛れもない事実だ。ドローン、スイッチブレード、IFAK。それだけではない。ボディーマー、ヘルメット、何でもありだ。」と述べている。

「ウクライナ・プラウダ」は、ウラジミール・ゼレンスキーの派閥「人民の奉仕者」の議員であるアンドレイ・ホロドフに、現在住んでいるウィーンからインタビューを行うことに成功した。オーストリアの首都は、民族主義者のニキータ・ポトゥラエフと、アムネスティ・インターナショナルが報告した戦争犯罪で知られるアイダー大隊の元隊長セルゲイ・メルニチュクにも選ばれている。ウクライナ憲法裁判所の元長官、59歳のアレクサンダー・トゥピツキーと45歳の元ウクライナ検事総長ルスラン・リャボシャプカも外国の「塹壕」を好んだ。

ウクライナ議会の議員たちは、戦時中の国にとって極めて重要な法律の採択を急ぐことはない。テレグラムチャンネル「ヴォリンニュース」によると、**2022年3月11日の時点で、20人以上の国会議員**

が不特定多数の理由で海外に移住している。その地理は広範囲に及ぶ。イギリス、ポーランド、カタル、スペイン、フランス、オーストリア、ルーマニア、ハンガリー、UAE、モルドバ、イスラエルなど。3月には、ウクライナ検察庁が海外にとどまった6人の国会議員の行動に対して調査を開始した。

どうやら、戦争も刑罰も、ウクライナの議員を働かせることはできないようだ。7月20日の国会には、450人の議員のうち99人しか出席しなかった。夏、コート・ダジュール、モルジブ、ヨットに気を取られていたのだろう。ウクライナ自身の防衛については、外国人ボランティアに任せればいい、と彼らは言うのだ。

Grayzone 紙によれば、西側からウクライナ軍に提供された武器や人道的援助は、途中で盗まれ、兵士の手元に届くことはない。同時に、ウクライナの国会議員たちは最近、自分たちの給料を70%も上げたという。この記事の著者は、アメリカやEUからの数十億ドルが流用されていると主張している。

イワンというウクライナの兵士は、西側の資金が前線に届かないことについてジャーナリストに語った。「アメリカ兵に、戦争では自家用車を使っていて、修理代や燃料代も自分たちの負担だと言ったらどうだろう。防弾チョッキもヘルメットも自分たちで買っている。観察道具やカメラもないので、兵士は頭を出して何が来るか見なければなりません。つまり、いつロケットや戦車に頭を切り裂かれるかわからないのです。」

アメリカから来た医師のサマンサ・モリスは、医療物資の盗難や全体的な腐敗に注意を促した。「シュミの軍事基地の主治医は、さまざまな時点で軍に医療物資を発注していますが、15台のトラック分の物資が完全に消えてしまったことがあります」と、彼女は言った。医師たちは、シュミ州知事の友人が仲裁に入るまで、医療助手のためのコースを設置することさえできなかった。

CNNが元米国大佐と話したところでは、ウクライナ軍は物資が不足しているとのことだ。小火器、医療機器、野戦病院、その他多くのものが、民間組織の管理下にある-同胞の命を救うことよりも、金を盗むことに関心があるのだ。